

# 事故報告(注意喚起)

九州地方整備局 港湾空港部  
工事安全推進室

管内事務所の工事で発生しました事故について、事故発生の原因及び再発防止対策を取りまとめたので情報提供致します。

## I. 事故概要

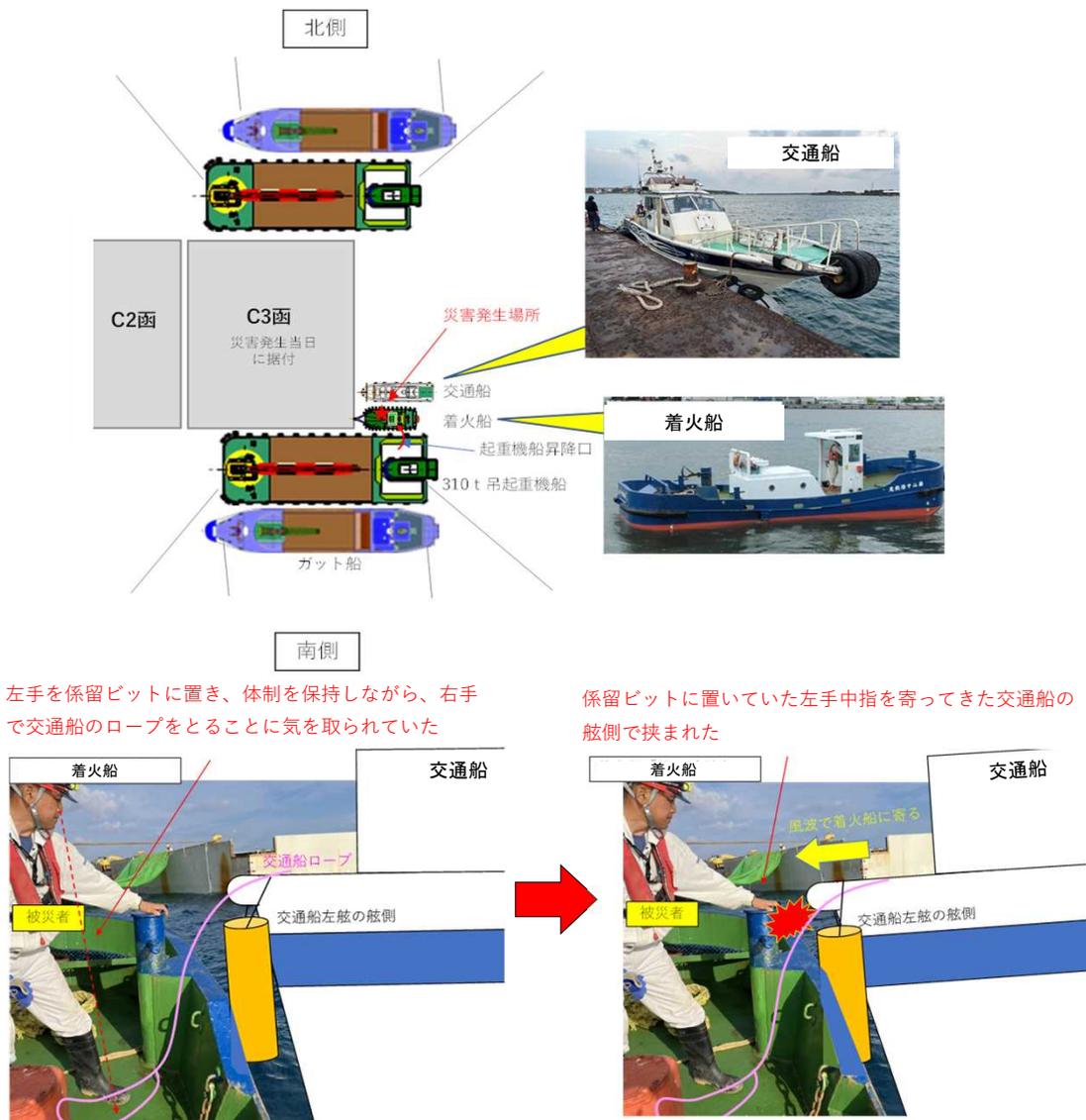
発生日時 令和6年6月1日(土) 午後23時5分頃

作業内容 作業終了後交通船へ乗船

被災状況 左中指末節開放骨折

## II. 事故発生状況

- 中詰砂投入作業終了後、交通船を着火船に係留する際、係留作業の補助として綱取りをしようとしたときに着火船と交通船の間で手指を挟み負傷した。



事故発生状況の再現写真

### Ⅲ. 事故発生の原因

- 1) 交通船を着火船に係留する際、係留作業を補助するため、着火船の係留ビートの天端に左手を置いて、体勢を保持しながら右手で交通船の係留ロープをつかもうとした。  
ロープをとることに気を取られて、交通船の船首が当たる危険箇所(係留ビート)に手を添えていることに気がつかなかった  
【危険に対する認識不足】
- 2) 夜間での行為であったため、既設の照明だけでは薄暗く、船舶接近の認識が遅れた。  
【不安全な作業環境】

### Ⅳ. 再発防止対策

- 1) 交通船を着火船に横付けする際には、係留ロープは、着火船の舷側側の係留ビートに取るのではなく、交通船が接触しない着火船中央部の離れた係留ビートを使用する。  
【係留方法の改善】
- 2) 交通船の舷側側の照明を増設し、乗り込み箇所を明瞭にする。舷側側が夜間薄暗いため、舷側側に照明を増設して照度を確保する。また、夜間作業時のヘッドライト装着を徹底する。  
【作業環境の改善】
- 3) 着火船等の乾舷が交通船よりも低い船舶の係留ビートやボラードの天端に「手を置くな」ステッカーを貼り付け、注意喚起を行う。  
【危険箇所の明示】



ステッカーイメージ図

- 4) 交通船と着火船がしっかりと係留され、2船間の動揺がおさまったのを見計らって、交通船船長は警笛等の合図を行い、作業員は乗り降りする。  
また、交通船に乗り降りする作業員は係留作業時に挟まれる恐れがある舷側側に立たない。  
さらに海上作業に従事する全作業員、特に海上作業の経験のない者に交通船からの乗下船する際の注意事項を教育する必要があるため、新規入場時教育に本事例を追加し、船舶乗下船時の注意事項を周知徹底する。  
【船舶乗下船時の注意事項の周知徹底】
- 5) 上記の再発防止対策の実施状況を、元請(支店の安全担当部長等)と下請で確認する。  
【安全意識の向上】